

謹賀新年

2006年1月1日

戌

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

小泉改革が叫ばれています。

しかし、少子化・低位推計に近い「出生率1.29」の記事には、「どのような改革も、社会保障制度維持の面で不十分であり、社会を持続可能に出来ない」と、結論しているものがあります。

制度の改革だけでこの危機を乗り越えることが出来るのでしょうか？

私は、一人ひとりの考え方の革新がなければこの危機を越えることが出来ないと考えてきました。

慶応大学の創始者の福沢諭吉氏は、文明論の概略の中で、「半開社会」を定義しています。官に依存し、自立しないそんな精神を江戸幕府政治以来の日本人の特質とみて、「文明の本質を事物と精神に区分し、事物を真似ることは出来るが、精神が文明化できない。」とし、日本を半開社会と位置づけたのです。

言い得て妙と実感します。今我々団塊世代に求められているのは、次世代を恰も奴隷のごとくにして、その所得を我々がなっていく高齢者に移転し、生活させてもらう生活を送るのではなく、何歳になっても社会貢献をし続けると云う自立の精神、自立の決意です。

脳卒中で倒れたら仕方がないだろう・・・介護にお世話になるのだ・・・この現実を改善する必要もあります。

仲間と共に私が努力を続ける研究事業は、リハビリテーション医学の革新を実現しつつあります。 詳細は <http://www.biophilia.info> をご覧下さい。

多年の念願が実現に一步近づいている。

そんなことを感じながら、皆様と共に新年を明るい気持ちで迎えたいと思っています。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

滝沢茂男